

R6年大豆栽培農事メモ 第3号 (里のほほえみ版)

令和6年7月19日
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
松任市農業協同組合

1 生育状況

- 播種期間の好天により、播種は順調に進みました。
- 6月22日に梅雨入りし、培土はやや遅れ気味です。
- 管内の里のほほえみの開花盛期は、7月25日頃と予想されます。
- 生育は旺盛になっており、今後より多くの水分が必要な状況となっています。
- 今年の夏も高温と予測されているため、気象の変化に注意し、ほ場の状態にあった管理（かん水・排水）を実施してください。



里のほほえみ エンレイ

2 早急に培土と追肥を実施しましょう！

- 開花時期が迫っています。生育量を確保するため、2回目の培土と一発肥料を用いていない圃場では追肥を速やかに実施しましょう。（葉色が薄い場合は特に積極的に実施）

播種区分	培土・追肥時期	追肥（肥料名、施用量）
6月播種	7月末まで	硫安 10kg/10a または NK17号 12kg/10a

3 高温乾燥時や強風時は、うね間かん水を実施しましょう！

- 開花期（7月中下旬）～莢伸長期（8月上・中旬）にかけては干害の影響を受けやすく、圃場の乾燥が続くと着莢数が減り減収します。

- 今後、晴天が続き、5日以上連続で降雨がなく、うね間が白く乾いたら、葉が裏返る前に早めにうね間かん水を実施しましょう。

- うね間かん水は、地温の低い夕方から早朝にかけて行いましょう。

- うね間かん水を円滑に実施するため、うね間のつながりや排水溝等の点検を行い、入排水がスムーズにできるようにしましょう。



4 除草対策・除草剤の散布により雑草の発生を抑えましょう！

※いずれの除草剤も大豆にかかると枯れるため、注意して散布して下さい。

除草剤名	適用雑草名	使用時期 [収穫前日数]	10a 当たり使用量 (希釈水量)	散布 方法	使用 回数
バスタ液剤	一年生雑草 【非選択性】	畦間処理：雑草生育期 [収穫28日前まで]	300～500 mL (100～150L)	雑草茎葉散布	3回以内
プリグロックスL	一年生雑草 【非選択性】	畦間処理：雑草生育期 (草丈30cm以下) [収穫3日前まで]	600～1000 mL (100～150L)		4回以内
ラウンドアップ マックスロード	一年生雑草 【非選択性】	畦間処理：雑草生育期 [収穫前日まで]	200～500 mL (通常散布50～100L) (少量散布25～50L)		2回以内

5 的確な防除で収量・品質向上に努めましょう！

里のほほえみには、ウコンノメイガや葉焼病が発生しやすく、子実肥大期の葉の損傷による充実低下がおきやすいので、初発時の薬剤防除を的確に行ってください。



(1) 粉剤防除

	生育ステージ	使用時期の目安	使用薬剤名 [収穫前日数]	10a 当たり 使用量	対象病害虫名	使用 回数
1回目	開花期～幼莢期	7月25日 ～30日	Zボルドー粉剤 DL [－]	3 kg	紫斑病	－
			スミチオン粉剤 3DL [収穫21日前まで]	4 kg	カメシ類	4回以内
2回目	子実肥大初期	8月16日 ～20日	トライトレボン粉剤 DL [収穫14日前まで]	3 kg	紫斑病、カメシ類、 マシクイガ	2回以内
3回目	子実肥大後期	8月27日 ～9月5日	トレボン粉剤 DL [収穫14日前まで]	4 kg	カメシ類、ハモンヨトリ マシクイガ、フタジヒメハムシ	2回以内
随時	開花期～幼莢期 (7月下旬～8月上旬)	ウコンノメイガ 初発時	ダントツH粉剤 DL [収穫7日前まで]	4 kg	ウコンノメイガ	3回以内
	子実肥大後期以降	カメシ類多発時	スタークル粉剤 DL [収穫7日前まで]	3 kg	カメシ類	2回以内

(2) 液剤防除

	生育ステージ	使用時期の目安	使用薬剤名 [収穫前日数]	希釈倍数 (10a 当たり 使用液量)	対象病害虫名	使用 回数
1回目	開花期～ 幼莢期	7月25日 ～30日	混用 Zボルドー [－] プレバソンフロアブル5 [収穫7日前まで]	500 倍 (100～300L)	紫斑病、葉焼病 斑点細菌病	－
				4,000 倍 (100～300L)	ハモンヨトリ、ウコンノメイガ マシクイガ、材バコガ	2回以内
2回目	子実肥大初期	8月16日 ～20日	アミスタートレボン SE [収穫14日前まで]	1,000 倍 (100～300L)	紫斑病、ハモンヨトリ、 カメシ類、マシクイガ アブラムシ類	2回以内
3回目	子実肥大後期	8月27日 ～9月5日	カスケード乳剤 [収穫7日前まで]	4,000 倍 (100～300L)	カメシ類、ハダニ類 マシクイガ、フタジヒメハムシ 他	2回以内
随時		ウコンノメイガ ヨトリ、多発時	トレボン乳剤 [収穫7日前まで]	1,000 倍 (100～300L)	アブラムシ類、カメシ類 マシクイガ、フタジヒメハムシ 他	2回以内
		ハダニ 初発時	ニッソラン水和剤 [収穫7日前まで]	2,000 ～3,000 倍 (100～300L)	ハダニ類	2回以内
	子実肥大後期以降	カメシ類多発時	スタークル液剤 10 [収穫7日前まで]	1,000 倍 (100～300L)	カメシ類、フタジヒメハムシ、 ダイズサヤマハエ	2回以内



農薬・除草剤の使用では、使用基準を守り適正に使用し、周囲への飛散に注意するとともに、作業は熱中症予防のため、特に暑い日は無理をしない！